参考資料：岡山縣上道郡古都村史、『岡山市の地名』著者岡山地名研究者
岡山史蹟めぐり（岡山市立西大寺公民館古都分館）

矢津（やづ）村　（現、矢津）

村名の由来は分からないが、享保６年（1721）の『備陽記』には宍甘村から分村した矢津村の名がみえる。このことから正保(1644～48)～享保６年までの間に開村されたことが想像される。

『備陽記』によると、古代の山陽道が可真駅（かまえき）（現、和気群佐伯町可真）から高月駅（現、赤磐郡山陽町馬屋）を通っていたころ、高槻駅から備前国府があった国府市場（こうのいちば）に通ずる矢津超えの道があったが、山陽道が南に移り、片上（現、備前市）―福岡（現、長船町）を通るようになってからはこの道も廃れたと伝えられている。

※備陽記(びようき）とは、備前一国すなわち岡山藩領の初めての本格的な地理的特質について記した書物。

明治８年(1875)２月	宍甘村と土田村のうち奥矢津と合併して宍甘村となった
明治 22 年６月	町村制施行で藤井・南方・鉄・宿の４ヶ村と合併して古都村となった
昭和 28 年(1953)２月	古都村は西大寺市に編入合併され矢津は大字名になった
昭和 44 年２月	西大寺の岡山市編入合併に伴い西大寺矢津となった
昭和 47 年７月	矢津と改称した